

		A とても思 う	B 思 う	C 思 わ な り 	D 思 わ な い	E わ か ら な い
令和3年度 世田谷区立 喜多見小学校 学校関係者評価自己点検表						
1 学習指導について						
自分は、子どもたちが授業の内容を意欲的に学ぶために工夫している。	2	29	3	0	0	
自分は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	3	26	5	0	0	
自分は、子どもの話合いや発表などの機会を作っている。	5	28	1	0	0	
自分は、映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている。	2	26	5	1	0	
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを研修を行っても使いこなせない現状があるので個人の課題である。 ・学年で教材研究できる時間をとれるようにしたい。 ・コロナ禍の中で、どの程度子ども同士の交流を持たせればよかったですか、共通理解をしたかった。 					
【改善策・考察】	<p>・授業の中での子ども同士の交流については、世田谷区から方針はでていたがそれについて本校独自の検討はなかった。今後、また新種の株が出てきたときのために検討する必要がある。</p> <p>・児童にとって分かる授業が展開できるように、引き続き教材研究を行っていく。また教員同士で互いの授業を見たり、教材研究を行うことができる時間を作り、よりよい授業づくりを行っていく。</p> <p>・区の方針と新型コロナウィルス感染症で、タブレットを活用した授業やオンライン授業が日常となった。今後も安定した学びの場を提供できるように、教員研修を行い、技能を高めていく。また、得手不得手はあるが、時代の流れに柔軟に対応し、積極的に活用していく必要がある。</p>					
2 生活指導について						
自分は、学校のルールについて子供に考えさせる指導をしている。	6	27	1	0	0	
本校は、教員が指導したルールについて子どもが理解している。	0	29	5	0	0	
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が日々の指導の際、「なぜいけないのか。」を丁寧に説明することを心掛けている結果である。 ・全体として見れば、ルールを逸脱するような児童が少ない実態がアンケート結果に表れている。 					
【改善策・考察】	<p>・喜多見スタンダードを活用し、指導を行っている。また、毎週、週番の教員が生活指導のめあて(例えば「廊下は右側を歩きましょう」)を児童朝会で伝えている。そのめあての達成のために、各クラス指導をしている。しかし、児童は理解できていないのか改善まで至っていないところもある。児童に分かりやすく、実践したいと思う提案ができるよう、児童の立場に立った改善策を今後考えていく。</p>					
3 学校行事(運動会、学芸会、宿泊行事など)について						
学校行事は、子どもにとって楽しい。	15	19	0	0	0	
学校行事は、子どもにとって達成感がある。	9	25	0	0	0	
自分は、子どもの意欲を大切にしている。	9	24	1	0	0	
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは学校行事を楽しみにしている。 ・行事に対する意欲が子どもによってかなり違いがある。 ・校内研で学級活動(3)に取り組んでいることから、行事から次の行事に絡めてスキルアップしていかなければよいのではないか。 					
【改善策・考察】	<p>・学校行事の成功に向かって、児童が輝く姿を多く見てきた。今後も児童の活躍の場を大切に、達成感を味わわせられるように指導を続けていく。しかし、行事に対する意欲が子どもによってかなり違があるのが問題である。教員がどのように行事に対して向かわせていくかを検討していく必要がある。その改善策の一つとして、研究で取り組んでいることを生かして行事に向かう姿勢や次の行事とのつながりを考えさせたい。</p>					
4 キャリア教育について						
自分は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。	4	25	5	0	0	
本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業がある。	6	25	3	0	0	
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、将来の自分や今の課題について考え、自ら行動しようとする子が多い。本校の研究活動が特別活動であることも一因であるかと思う。 					

・コロナ禍が続き、通常時よりは地域との交流する機会が少なくなっている。その中でも可能な限り、地域の方をゲストティーチャーに招いたり、学校便り等で地域への情報開示を行ってきた。

【改善策・考察】

- ・次大夫堀公園での田植え、稻刈り体験、キャリア教育でのゲストティーチャー、外環自動車道の見学など、喜多見ならではの活動ができていると考える。近年はコロナ禍のため実施が難しいこともあったが、明けてからも実施していくよう、活動の記録を残しておく。
- ・学校だよりやホームページ等で地域に向けて情報提供を行っている。今後も継続していく。

9 学校の安全性について

学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。	3	31	0	0	0
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。	9	25	0	0	0
本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。	5	25	3	0	1

理由

PTA活動の中で、災害への対応情報を提供している。不審者対応に関しては、毎年訓練はしているが、やはり教職員だけでは防ぎきれないところもあるのかと思う。学校単位での改善は難しいかと思うが、何かしら改善できたらと思う。

【改善策・考察】

- ・コロナ禍でも避難訓練やセーフティ教室をできる形で実施したことは、安心・安全な学校作りへつながったと考える。
- ・今年度は不審者対応訓練の様子を動画で撮影した。まずは児童と鑑賞し、どのような状況なのかを確かめたり、どのように対応すべきか話し合ったりすることに取り組んでいきたい。

10 学校運営について

学校の重点目標が明確である。	3	29	2	0	0
校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	4	30	0	0	0

理由

さらに、疑問に思った時の共通理解・コミュニケーションを図っていきたい。行事を含め学校の各活動について、提案時に重点目標との関連性について伝える。ねらいを「読んでおいてください」としても、重点目標のことと関連しているという一言を入れると意識が違ってくる。それぞれにそれぞれの役割を果たそうとしており、協力して教育活動に取り組んでいるが、このコロナ禍の影響もあり、かなり皆さん負担感が大きくなっているのではないかと思う。児童や保護者に対して最大限のことをと思ってやっているが、直前に様々なものがおろされてきたり、直前まで決まらなかったりすることも多く、振り回されてしまっている感じは否めない。

【改善策・考察】

- ・各行事や活動では、より一層「ねらい」を大切にしていく。重点目標のどことつながっているのかを考えてから、計画・実施していく。
- ・コロナ禍での対応は、細かな点まで学校全体での共通理解やコミュニケーションが必要になる機会が多かった。担当任せにするのではなく、一人一人が自覚を持って諸活動に取り組み、疑問を自ら積極的に発信していく。

11 本校独自評価項目

児童は主体的に挨拶をする。	1	24	7	2	0
児童の言葉遣いはよい。	1	19	14	0	0
児童は、読書が好きである。	1	28	5	0	0

理由

こちらから挨拶をし、目が合っても、挨拶を返せない児童が多い。挨拶が返ってくるまで、何度も声をかけたり、名前を呼んだりして、粘り強く対応したい。

【改善策・考察】

- ・言葉遣いは、まずは教員が正しい言葉遣いの手本となるように行動していく必要がある。家庭環境や社会的な環境により、無意識のうちに乱暴な言葉遣いが身に付いてしまっている児童もいるので、全体指導や個別での声かけを粘り強く続ける。
- ・挨拶は、コロナ禍の影響で、表情が見えなかったり、声を出しづらかったりする状況ではあるが、人とのつながりをつくる大事なコミュニケーション方法であることを伝え、指導していきたい。あいさつ運動は感染状況を見つつ、学校全体で行う体制に戻していきたい。

|